



第 127 号

発 行 者

東筑摩塩尻教育会

編 集 者

会誌会報委員会

子どもの姿は教師の姿を映す鏡

東筑摩塩尻教育会長 赤津 勝広



たと思いますよ」

以前五年生を担任していた時に、ある保護者から言われた言葉。言われた時は何のことなのか分からず、「何のことですか」と問い返すと、参観日の後の学級懇談会のことだという。

「あの時、先生が親に『子どもたちが本当にかわいい』と言われたことで、親はみんなほっと安心したと思いますよ」という話に、内心、「それだけのこと？」と思いながらも、その保護者の言われた言葉の重みを考えさせられた。

最近頃には過去のことを思い出すことが多くなった。教師として歩んできた三十六年の中には今でも印象深く思い出されるものがたくさんあるが、自分の教師としての在り方を見返すきっかけとなった保護者の言葉や子どもたちの行動は、今でもその時の情景と共に心に強く残っている。

「親はあの時の先生の言葉で、安心して

今までの関係は独りよがりの思い込みに過ぎず、そんな自分に対して、恥ずかしさを感じざるを得なかった。

「子どもたちが本当にかわいい」と感じていたその頃は、子どもたちとの生活が楽しくて仕方なかったと記憶している。何気なく自然に口から出た言葉であったが、保護者はきつと、担任の表情や話すときの雰囲気から、今までとは違ったものを感じ取ったのかもしれない。

いくら言葉でうまいことを言っても、そこから感じられる雰囲気というものを、保護者は感じている。また、家に帰った子どもたちの様子から、学校でのことをいろいろに感じている。そのことを痛感させられた一言であった。

初めて一年生を担任したとき、A子との出会いがあった。

彼女は気の強い性格からか、保育園の頃から友達に素直に謝ることができず、トラブルが修復できないことがあった。小学校に入學しても、時々同じようなことが起きた。はじめて担任した一年生、じっくり話せば分かるだろうと高をくくっていたが、わかるように話したつもりでも、そつばを向いてしまい素直になれないA子の姿があった。こちらが根負けして声を荒げるようなこともたびたびあり、どうしたら分かってくれるだろうと日々悩む日が続いた。

そんなある日、また、トラブルが起きた。いつもと同じように言ってもまた同じような結末になってしまうだろうと思

い、「Aちゃんは、こんなにいいところがいっぱいあるのに……」と、私なりに日頃感じていたA子の素敵だなと思う姿を伝えながら話をした。

ふと気が付くと、うつむいて目に涙をいっぱい溜めたA子がそこにいた。どんなに強く叱っても、決して涙を見せることがなかったA子。その日、A子の子ともらしい本当の姿を見た気がした。そして、今までの自分の指導が、A子の気持ちとはかけ離れたところにあり、何も彼女の中に入っていないことも気づかされた。今までの自分のA子への対応は何だったのかと、愕然とした瞬間でもあった。

その日私は、A子の姿が、自分の指導がどうだったのかを映す鏡だったことに気づかされた。

最後に、先の東筑摩塩尻教育会総集会で話させていただいた「暗夜の一燈」について、ここでもう一度紹介させていただきます。

「提一燈行暗夜勿憂暗夜只頼一燈」

(一燈を提げて暗夜を行く 暗夜を憂うること勿れ 只一燈を頼め)

『佐藤一斎 言志四録より』
当日は、東筑摩教育会の前身である信濃教育会東筑摩支部会長の務められた大池蚕雄先生の書で、紹介させていただきました。大池先生の思いを受け継ぎながら、私たちなりの「暗夜の一燈」を見つけていきたいと思います。

特 集

◆平成二十九年 東筑摩塩尻教育会総集会
平成二十九年五月十三日(土) 塩尻市レザンホール

会 員 発 表

美術教育研究会

川 船 賢

五月十三日の教育会総会では、私たち美術教育研究会の取り組みの紹介をさせていただく機会を得られ、感謝しております。『小学校の新しい絵画表現を求めて、塩筑から発信しよう。』という目標で小学校の先生方にも声をかけ、研修を積み重ねながら、子どもたちの絵を見る目や感性を磨き、実際に絵画展の審査でも今の時代に合った新しい題材や表現の作品をより多く選び出し、全県に発信してき

ました。その成果が、昨年度は少しずつ表れ、広まってきたと思います。
この取り組みに際しては、小学校の図工担当の先生方や実際に指導される担任の先生方、研修等でご指導いただきました黒澤増博先生(市教育センター)、本会会長の村上啓先生(広陵中学校)や実践を発表していただいた会員の先生方のお蔭と感謝申し上げます。

会員発表では、活動内容の様子や子どもたちの絵画作品等の紹介をパワーポイントにて紹介させていただきましたので、ここではそれをもう一度掲載させていただきます。本年度も引き続き、本研究会の中心活動の一つとして研鑽を積んでいきたいと思えます。塩筑の子どもたちの図工・美術教育がさらに発展していけるように努めてまいりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

今までの絵画題材からの脱却

図工の教科書が改訂になったけれど、美術展の審査に出される絵の題材や内容は写真画がほとんどで変わっていないように感じる事が多かった。《変えたいと思うけれど、今一歩が踏み出せない》

そこで...
昨年度の自主研修等では、塩尻市教育センターの黒澤増博先生や会員の先生方に講師をお願いし、小学校図工担当の先生方と一緒に研修を重ね、絵画の新しい題材や表現をみんなで探ってきました。また、入選作品も思い切って変えてきました。

第1回自主研修の様子

今の時代に合った、新しい絵画の題材や表現、指導の方向性をみんなで考えよう。



黒澤増博先生(塩尻市教育センター)から図工科に児童の作品を添削して示す

小学校ではどのような題材が多いのだろうか？
定番の題材は安心できるけれど...

今までの小学校図工の絵画題材や絵画展の入選作品と言えば...

- ・わたしの育てたへちま
- ・大きくなったヒマワリ
- ・リコーダーを吹くわたし(友だち)
- ・わたしのカーン
- ・ゆめの木
- ・運動会
- ・水泳(プール)

これらの題材がけがして悪いというわけではありませんが、すべって定番の題材でした。絵の審査でも、毎年同じような作品がたくさん入選していました。

新しい題材や表現の作品をどんどん発信していきたいという願いをもって、作品展の審査の方法や入選作品の傾向を思い切って変えていくことにしました。《塩筑からの発信》

着彩実技の講習

アクリル板を使って、絵の具の厚塗り表現に挑戦しました。重ね塗りの楽しさと魅力を体験。



太田浩介先生(生家中)の実技から学ぶ

第2回自主研修の様子

小学校での図工指導の実践。構想表現を生かした絵画題材がたくさん紹介されました。



松村弘文先生(結城小)の実技から学ぶ

黒澤先生からは、県児童生徒美術展や今を生きる子どもたちの絵展の審査の折に助言をいただくとともに、巡回展で子どもたちの絵の方向をご指導いただきました。

図工の教科書題材にも魅力的な作品例がいっぱいあるぞ

～切ったり貼ったり、いろいろな画材や道具を使って色をつけたり…、思わぬ発見もあって楽しいぞ！～



別の画面に描いた絵を、手でさぐって絵をのりいれ、お父さんはどこに貼るかな？寝て、考えて、思いが深まります。



コロロとローラーを使ってその色付けも楽しいねいろいろな色が重なるときれいだね



割ったタマゴの絵を他の絵と組み合わせると不思議な世界が見えてきます。

昨年度(Ｈ28)の絵画展の審査から子どもたちの新しい表現作品の発信

描かせ方を指導するのではなく、子どもたちの自由な発想の絵画表現を引き出そう。

子どもたちの心に浮かんだイメージや思いを、どう広げ、深めて表現につなげていくか

- 子ども一人一人の対話を通して、表現したい思いを教師が言葉として引き出し、はっきりさせていくことが大事。
- 教師や子ども同士の対話が新しいアイデアのひらめきにもつながる。
- 表現方法の多様性を認め、教師もたくさんの引き出しを用意しておくことも大切。最終決定は子ども自身が決断できるように導く。

少しずつ変わり始めた絵画指導の実践

昨年度の県展や今を生きる子どもたちの絵展の地区審査では、各小学校の児童作品に

“構想的な内容や表現”

“幅広い画材や技法の活用”

が取り入れられて、楽しい絵画表現が増え始めてきたなと感じました。

想像する楽しさ・描く楽しさ・発信する楽しさ

着彩では、絵の具と画筆だけで描くのではなく、いろいろ試してみると新しい発見があり、表現も豊かになります。